

令和7年度

柊野だより

学校教育目標 「ともに学び ともに育つ」

3つのキーワード「当たり前のことを当たり前、背伸び、感謝」

令和7年 特別号

京都市立柊野小学校

校長 葉山 貴巳



令和7年度 第1回学校評価アンケートの結果のお知らせ

平素は本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。9月に実施いたしました第1回学校評価アンケートの結果を報告させていただきます。

今年度より、アンケートの項目を、より「学校教育目標（育成を目指す資質・能力）」『終野小学校グランドデザイン』の具体的な重点取組」に沿った形に変更しています。今回のアンケートでは、14項目の質問をさせていただきました。その中で、「確かな学力」に関しては8項目、「豊かな心」に関しては4項目、「健やかな体」に関しては2項目の内容で質問させていただきました。これらの結果をもとに分析しましたので、ご一読ください。今後ともどうぞよろしくお願いします。

保護者アンケート	実現度			児童アンケート	実現度			教職員アンケート	実現度			地域アンケート	実現度	
	positive	negative			positive	negative			positive	negative			positive	negative
お子さんは楽しく学校に行っている。	94%	6%	確 かな 学 力	がっこうはたのしい	91%	9%	確 かな 学 力	学びや活動の必然性を大切に、子どもの主体性を引き出そうとしている。	83%	17%	確 かな 学 力	学校は、学校教育目標やめざす子ども像の達成に向けて、教育活動を行っている。	100%	0%
お子さんは参観の様子やノート・テストの状況等から授業を理解している。と考える。	81%	19%		めあてにむかってがくしゅうをすすめている。	91%	9%		めあてとふり返りを大切に、学びと評価の一体化を図り「わかった・できる」を実感できる授業をしている。	83%	17%		学校は、学校便りやホームページなどで学校の様子を伝えている。	100%	0%
お子さんは、「なぜ?」「調べたい!」など興味や関心をもって進んで学習に臨んでいる。	67%	33%		「なぜ?」とおもったことを、じぶんからすすんでしらべたりかんがえたりしている。	79%	21%		子どもの問いを大切にした授業づくりを行っている。	80%	20%				
お子さんは、相手に分かるように、自分の考えを話したり書いたりして、周りの人に伝えている。	72%	28%		じぶんのかんがえをはなしたりかいたりしてまわりのひとにできるだけわかるようにつたえている。	81%	19%		授業に、考えを書いたり、協働的な学びを意識した話し合ったりする活動を入れるようにしている。	83%	17%				
お子さんは、読書をしたり、本で調べ物をしたりしている。	48%	52%		ほんをよんだり、ほんでしらべものをしたりしている。	73%	27%		子どもが本に親しむ環境づくりや声かけ、活動を工夫している。	77%	23%				
お子さんは、自分で計画的に家庭学習に取り組んでいる。	59%	41%		じぶんでがくしゅうのけいかくをたてて、しゅくだいやチャレンジノートなどにとりくんでいる。	82%	18%		家庭で主体的に学習できるように、個別最適な学びを意識し、学習マネジメントを視野に入れた計画や学習の取組を工夫している。	57%	43%				
お子さんは、学習にGIGA端末を適切に活用している。	72%	28%		ギガたんまつをがくしゅうするのにやくだてている。	85%	15%		「京都DXビジョン」を意識し、GIGA端末をより効果的に学習に取り入れている。	83%	17%				
お子さんは、情報モラルに気を付け、GIGA端末やスマートフォンなどの情報機器を正しく扱っている。	84%	16%		じょうほうやギガたんまつなどをつかうときのルールやマナーをまもっている。	98%	2%		情報や情報機器を正しく使えるよう、情報モラルについて指導している。	90%	10%				
お子さんは、たてわり活動や1年生を迎える会など全校での活動を充実させている。	92%	8%	豊 か な 心	なかよしグループでいろいろながくねんときょうりよくしたりかかわったりしている。	88%	12%	豊 か な 心	児童会活動等で子どもの「やってみよう」という気持ちを実現できる取組をしている。	87%	13%	豊 か な 心	子どもたちは、地域の人に挨拶をしている。	71%	29%
お子さんは、自分も周りの人も大切にすることを考えて、きまりを守っている。	94%	6%		じぶんもまわりのひとともたいせつにすることをかんがえて、きまりややくそくをまもっている。	96%	4%		学校のきまりや約束のある意味を共に考え、繰り返し丁寧に指導している。	100%	0%		子どもたちは、学校や地域でルールやマナーを守っている。	100%	0%
お子さんは、頼れる先生や友だちがいる。	93%	7%		せんせいやともだちにこまったことなどをそうだんしている。	80%	20%		一人一人の子どもに寄り添い、温かい指導、迅速な対応を心がけている。	93%	7%		学校は地域と連携して子どもを育てている。	100%	0%
お子さんは友だちひとりひとりのちがいを認め、よさを見つけている。	96%	4%		ともだちひとりひとりのちがいをみとめ、よさを見つけている。	89%	11%		毎月のにこにこ目標をもとに人権教育を実施し、多様性や思いやりの心の育成・集団作りに努めている。	90%	10%				
お子さんは、交通ルールやマナー、非常時の命を守る方法などを理解し、安全に気を付けて過ごしている。	95%	5%		健 や か な 体	じぶんやまわりのひとのあんぜんをまもるために、こうつうルールをまもったりひなんくんれんにしんけんにとりくんだりしている。	96%		4%	健 や か な 体	放課後の遊び方や、交通安全、非常時の避難方法について子どもが主体的に考える指導している。			87%	13%
お子さんは、食事や運動の大切さを理解し、健康に気を付けたり、運動に親しんだりしている。	86%	14%	しょくじやうんどうのたいせつさをしり、けんこうにきをつけたり、うんどうにしたしんだりしている。		92%	8%	健康や体力向上について子どもが主体的に考える指導している。	73%		27%				

「確かな学力」の育成に向けて

○「問い」を大切にしたい主体的な学び

子どもたちから生まれる疑問や、「もっと知りたい」「調べてみたい」という思いから生まれる「問い」を大切にしたい授業作りに取り組み始めています。特に、社会科や生活科の学習において、写真やグラフなどの資料、実際の活動から学びの必然性を生み出すことに力を入れています。「問い」について、予想を立て、熱心に調べたり考えを伝え合ったりする様子が、各教室でよく見られています。主体的な学びを引き出せるよう、引き続き授業改善を進めていきたいと思っています。

一方、個別最適な学びの実現、学習マネジメント力の向上については課題が見られます。「問い」が生まれることにより、学習の動機づけがされます。その問いを、どのような学び方でどのように解決していくのか、個別最適な学びを選択できることを目指していきます。



○ICTの適切な活用

子どもたちは、必要に応じてGIGA端末を使い、情報収集したりまとめたりする力がついてきました。学習するのに役立てており、一見使いこなしているようにも見受けられます。一方で、ルールを守って正しく情報や情報機器を扱うということについては、子どもたちの実態から引き続き指導が必要だと感じています。前述した個別最適な学びの実現には、学習方法の幅を広げていくことが必要です。さらに協働的な学びにつながるようなICTの活用を目指していきます。情報機器の扱いや情報モラルについては、保護者の皆様と連携を図り、ご協力いただきたくお願い申し上げます。11月に予定されている自由参観では情報モラルについての授業を実施予定です。ぜひ参観いただけたらと思います。

○読書活動

司書教諭を中心に、図書館の本の充実、月ごとの人権テーマに沿った本の紹介をしています。また教科の関連図書の教室配架や選書会の実施をしたり、「ゆめのひきだし」さんに読み聞かせをしていただいたりすることで、子どもたちが本と出合える場の設定をしています。これからもいろいろな本と出合う機会を作り、読書活動の充実を図っていきます。



「豊かな心」の育成に向けて

○特別活動の充実

たてわり遊びや、たてわり掃除などの異学年での活動を通して、人間関係形成力、自己有用感の向上を目指しています。今年度は6年生の児童が必要な委員会活動を自分たちで考え、委員会を立ち上げました。また、「1年生を迎える会」では、子どもたちのアイデア満載のあたたかい会を実施することができました。今後も「子どもが紡ぐ文化」「やってみたいと言える環境づくり」など、児童の主体性を尊重した活動の継続をしていきたいと思っています。



○自分も友達もみんな大切に

「自ら考え、正しい行動をする力、周りのことを考えて行動する力」を育てていきたいと考え、日々の指導をしています。なぜかまりを守らなければならないのか、自分の行動が周りにどのような影響を与えるのか…規範意識を育てると同時に、人間関係を構築する上で大切な思いやりの心、公德心についても日々の出来事や道徳科の学習を通して考えていきたいと思っています。

○頼れる存在

教職員は、子どもたちの些細な変化にも気付けるよう、毎日子どもたちの様子や顔を見ています。一人一人に寄り添い、丁寧に見取り、あたたかな声掛けができる教職員集団でありたいと考えています。保護者の皆様にとっても、頼れる存在となれるよう、家庭との連携も大切にしていきたいと考えています。

「健やかな体」の育成に向けて

○体力向上・健康増進・食育推進

運動に親しめるような機会や環境を設定し、運動に積極的でない児童であっても楽しく運動できるよう、児童会活動や学校全体の取組として運動遊びや外遊びを推進しています。自分の体や健康に関することについて興味をもち、主体的に考えられるよう、保健指導や食育についても継続して取り組み、自己管理能力の向上に努めていきます。生活習慣や情報機器を扱う時間など、保護者の皆様にご協力いただきたいと思います。

○安全について

交通事故や自然災害から自分の命や安全を守るためにはどのような行動をすればよいのか、また、未然防止のためにできることは何かを主体的に考え、理解を深められるような指導が必要だと考えています。

日常生活において、約束を守ること自分も周りの人の安全を守ることがができます。規範意識、自己指導能力の向上とともに安全意識の高揚を目指します。

